別紙 4

「成果報告書」等の納品方法について

1. 納入物件の形式・形態

納入物件は、一つの納入物件がまとまった形で保管され、さらにそれが外側から見て、どの事業、どの契約、どの納入物件か分かることが必要です。

ここでは、納入物件の納品形態、電子媒体に添付するタグ、および電子媒体の形式・形態等を示しますので、下記の方法にて、準備、納品等を行なってください。

2. 納入物件

(1) 納品書（紙媒体・押印要）： 別紙 5 参照

(2) 電子媒体格納リスト（紙媒体）： 別紙 6 参照

(3) 電子媒体（CD-R）： 開発成果報告のドキュメント（紙媒体の納品は不要です。）

開発成果報告のドキュメントとして、開発内容・ソフトウェアについてまとめた「成果報告書」と、一般公開を前提にその開発成果を簡潔にまとめた「成果概要」、「成果詳細」を提出ください。なお、必要に応じて「その他資料」を付加していただいても結構です。

※ 成果報告の詳細は、別資料「2022 年度成果報告書等の提出について」をご参照下さい。

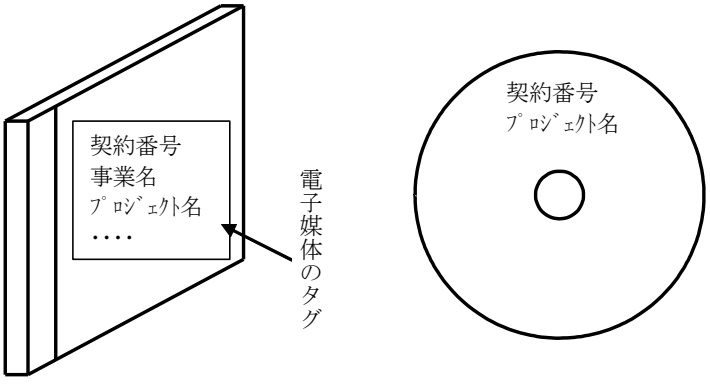
※ 「(1)電子媒体格納リスト」も電子データとして記録しておいて下さい。

3. ファイリング

ファイリング方法については、下記の通りとします。

(1) 納入電子媒体について

電子媒体（CD-R）の大きさは 5 インチとし、CD ケースにタグ（付録 1 を参照）を付けて、どの事業、どの契約、どの納入物件かが分かるようにします。また、媒体本体に契約番号と契約件名を印刷または手書き（油性ペン等を使用してください）で記入してください。



電子データを納品電子媒体に書き込むときは、納品電子媒体作成仕様（付録 2）に従ってください。

(2) ドキュメント

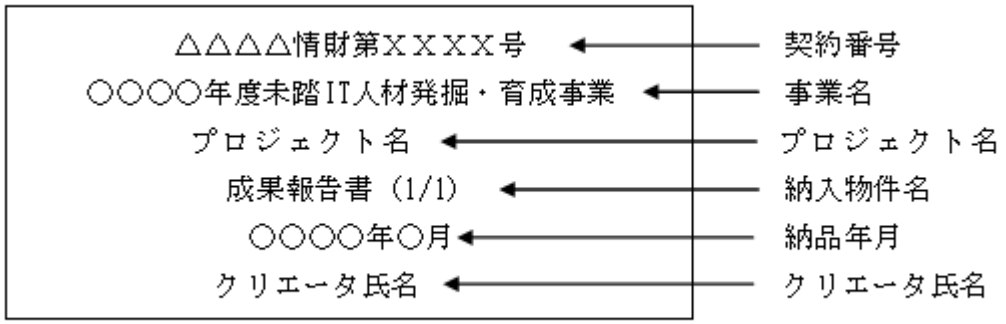
電子媒体で納品されるドキュメントの形式は、IPA で読み取れるもの（※疑問点は未踏 IT 人材発掘・育成事業事務局に確認ください）で提出ください。

(3) 全般

表紙類や電子媒体のタグなどに記載される、契約番号、事業名、プロジェクト名、納入物件（成果報告書）名は、当該ドキュメントや電子媒体が何かを示すものですので、契約書に記載された内容と一致している必要があります。契約書の記載内容を確かめ正確を期すようお願いいたします。

※ ドキュメントの納入物件については、検収の効率化のために書式の統一に留意してください。

付録１ 電子媒体のタグ（例）



付録２ 納品電子媒体作成仕様

納品電子媒体の作成にあたり、原則以下の通りの仕様とします。

【仕様】

1. メディア
   - CD-R（650MB/700MB）

2. 記録方式
   - ディスクアットワンス

> CD-R への書き込み方法の一つ。ディスク全体に一度にまとめてデータを書き込む。後から追加書き込みを行ったりはできないが、古い CD-ROM ドライブや PC 以外の機器との互換性は高い。

3. 論理フォーマット
   - 論理フォーマット : ISO9660（Level1 又は Level2）, Rock Ridge Format, Joliet, Romeo, HFS のいずれか、又は組み合わせ（ハイブリット構成）とすること。